

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	力学第二		
英文授業科目名	Mechanics II		
開講年度	2008年度	開講年次	1年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	専門科目-専門基礎科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	鈴木 勝		
居室	東1-103、106		

公開E-Mail	授業関連Webページ
m-suzuki@e-one.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>「力学第一」に引き続き、理工系の素養である古典力学（ニュートン力学）を学ぶ。「力学第二」は主として大きさのある物体（物理では“連続体”という）を扱う。角運動量、力のモーメント、慣性モーメントなどの用語の意味をあいまいさなく理解することが大切である。日常的に経験するいろいろな力学現象を物理的な観点から眺めることができるようになってほしい。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
力学第一

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

<b>【教科書等】</b>
『な?るほどの!力学』伊東敏雄著（学術図書）

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容とその進め方

授業の内容は以下のとおりである。各項目がほぼ1回の授業に対応する。

1. 非慣性系における運動の記述
2. 質点系の質量中心の運動
3. 2体問題
4. ロケットの運動
5. 質点系の角運動量
6. 剛体の角運動量と慣性モーメント
7. 剛体の運動の記述
8. 固定軸のある剛体の運動
9. 剛体の平面運動

各時間ごとに授業のキーポイントを簡単にまとめてもらう。期末試験以外に中間試験を行う。

(b) 授業時間外の学習(予習・復習等)について

予習として授業内容に対応する教科書の部分を読むこと。また、復習として教科書の問題を解くこと。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法

出席時間数が、その総授業時間数の3分の2の授業に出席している学生を評価の対象とする。

評価は、原則として期末試験の50%以上の得点をもって及第とする。成績の評価は、期末試験(100点)と中間試験(100点)の合計点をもって評価する。なお、期末試験では一部に標準クラスと基礎クラスに共通の問題を出題し、両クラスで成績に有利、不利がないよう配慮する。

(b) 評価基準

- ・各種の保存則から運動を考察することができること。
- ・回転体の慣性モーメントを求めて運動を解析することができること。
- ・その他の質点系と剛体の力学における基礎的内容を理解していること。

【オフィスアワー：授業相談】

特に指定せず、いつでも訪れてください。

【学生へのメッセージ】

「力学第二」においても、物理的用語の意味を完全に理解しよう。このことは論理的思考に不可欠である（キーワード参照）。

高校物理のような式の暗記や知識の詰め込みは不要である。そのかわり、なぜその式が出てきたのかを理解するように努めよう。つねに筋道立てて論理的に説明することができるように勉強して欲しい。

物理学は架空の世界の抽象理論ではない。数式で導いた結果は現実の現象を表す。数式の表す現実のイメージが湧かないならば、何もわかってないことになる。

単位を取得する秘訣は“欠席しないこと”と“遅れないこと”である。途中で欠席すと、次回から授業がわからなくなる。わからないままに放っておいたらまず単位は取れないだろう。もしわからなくなったら、遠慮なく上記居室を訪れて欲しい。

【その他】

なし